

富士山の火山活動解説資料(平成27年8月)

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2011年3月15日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況(図1)

25日に関東地方整備局の協力により上空からの観測を実施しましたが、特段の異常は認められませんでした。

萩原遠望カメラ(富士山山頂の東南東約18km)、中部地方整備局が朝霧(富士山山頂の西約14km)及び富士砂防事務所(富士山山頂の南西約17km)に設置しているカメラによる観測では、今期間、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況(図2、図3)

2011年3月15日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード6.4の地震以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。

深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は観測されていません。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

・地殻変動の状況(図4、図5)

GNSS^{注)}連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

注)GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 富士山 山頂部の状況
(8月11日 萩原遠望カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成27年9月分)は平成27年10月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平26情使、第578号)。

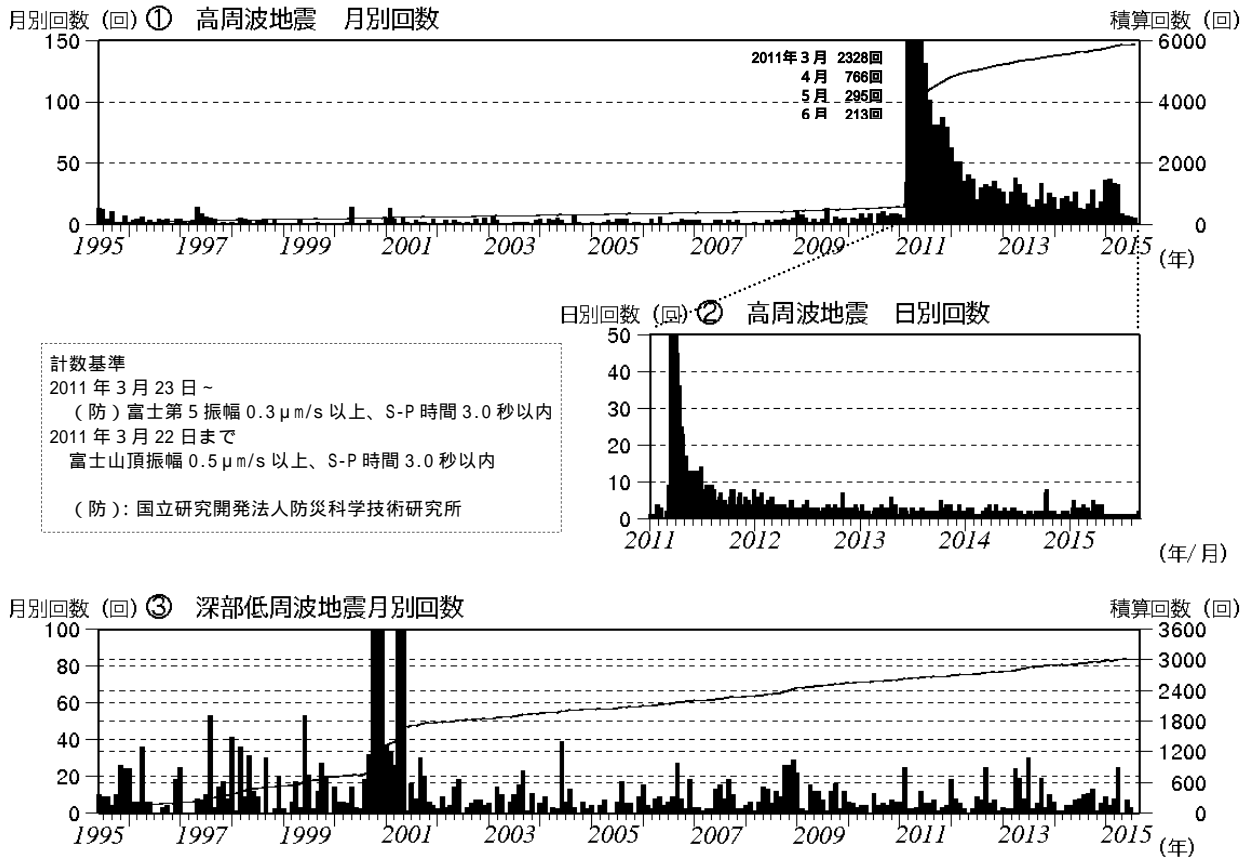


図2 富士山 月別及び日別地震回数（1995年6月1日～2015年8月31日）

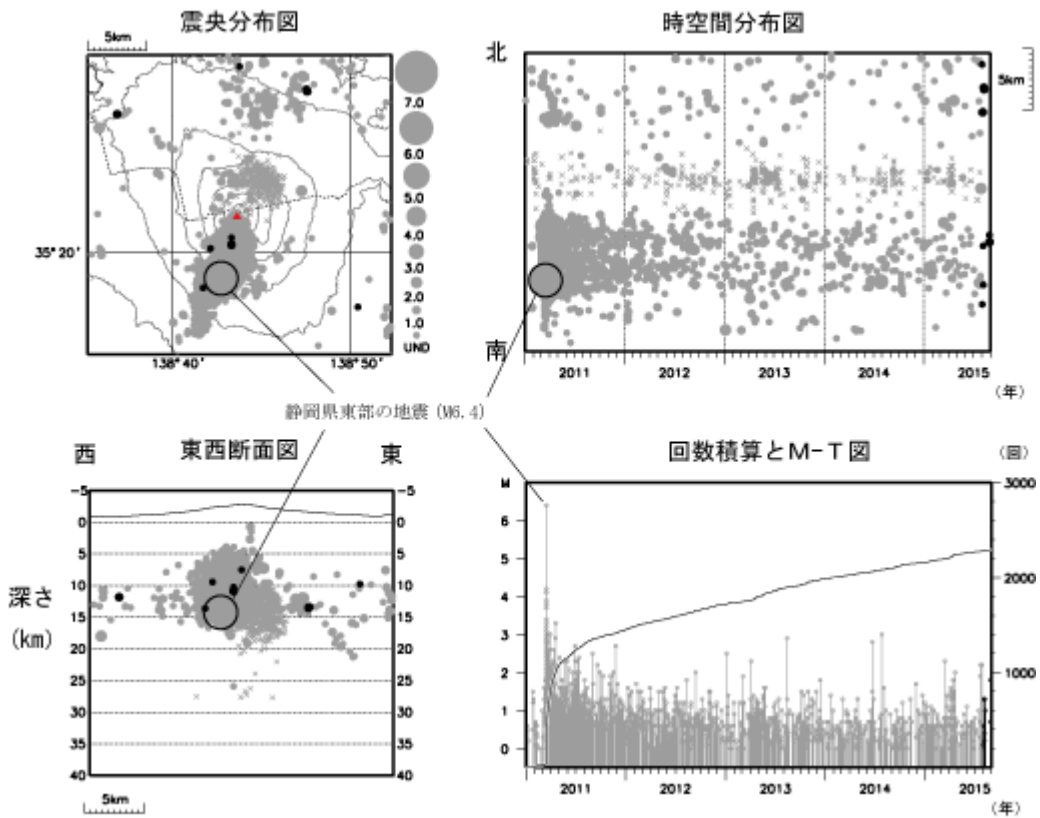


図3 富士山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2015年8月31日）
 : 2011年1月1日～2015年7月31日 : 2015年8月1日～8月31日
 ×は深部低周波地震を表します。M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

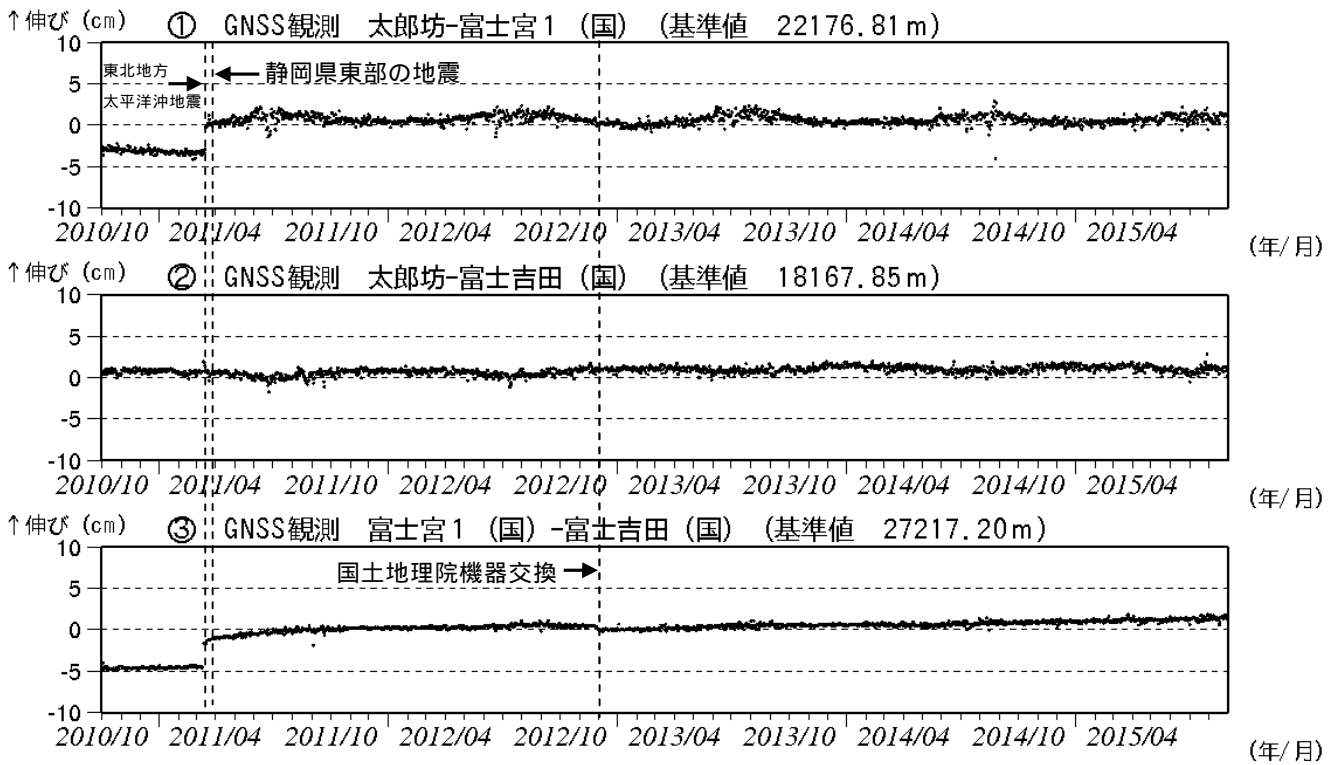


図4 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化（2010年10月1日～2015年8月31日）
（国）：国土地理院

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。

～ は図5のGNSS基線 ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

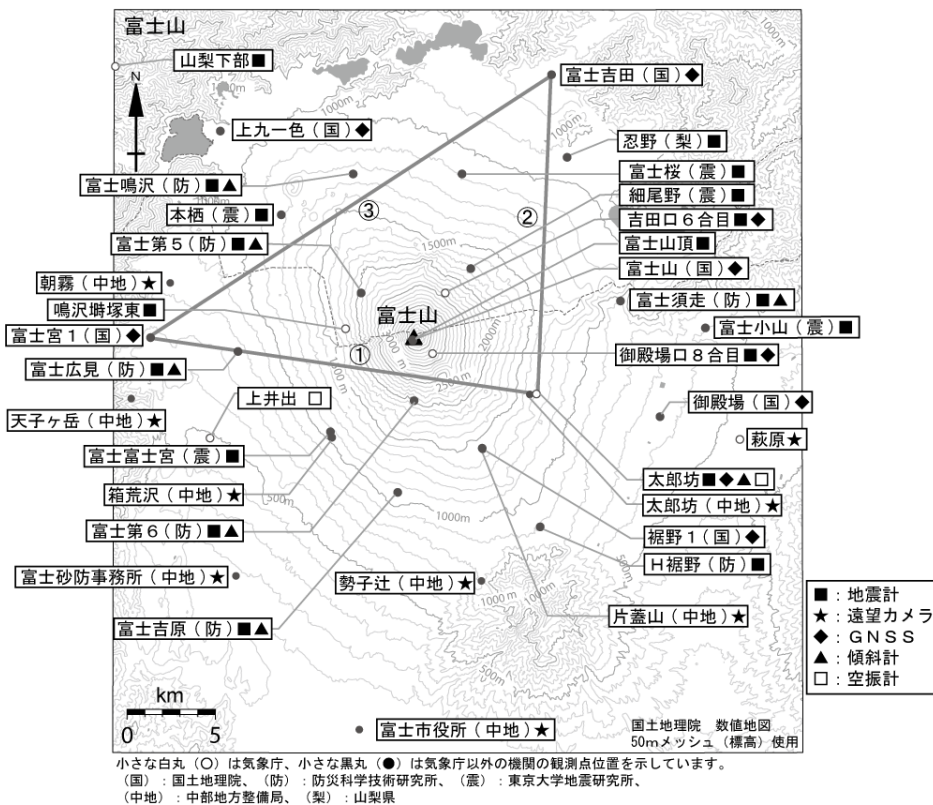


図5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線 ～ は図4の ～ に対応しています。